

ひかりのこ

6月園便り

聖ミエル幼稚園
2018年5月22日

月主題：感じる

「お母さんと子どもをつなぐ絵本」

5月15日(火)、北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻の植木克美教授を講師に、母親教室が開かれました。植木先生のお話は、発達心理学に基づいた、大変わかりやすいお話でした。

絵本の読み聞かせは「親子のきずな」を作ります。あたたかなゆったりした声で、子どもの反応を見ながら絵本を読む。このひとときが大好きなお母さん、お父さんに守られているという安心感を子どもにもたらしめます。これを心理学用語では「愛着(アタッチメント)」といいます。子どもが成長、発達していくときに最も大切な土台となるものです。どうしてかということ、「自分は守られている」という安心感が、外の世界に一步踏み出す力となるからです。

また、子どもの発達に応じて、読み聞かせ方は変わってきます。言葉を獲得する1歳頃、心の中で自分との対話を始める2、3歳頃、そして、考える力がより育っていく4~6歳頃。お母さんの働きかけは、子どものその姿を尊重するようにしていくことが大切です。そうすることによって、子どもは言葉を獲得し、考える力を身につけていきます。

母親教室の後半は、小グループに分かれて、お母さん方が「思い出の一冊」を紹介し合いました。和気あいあいとしたとても素敵な時間でした。

あるお母さんの持ってきてくださった絵本のエピソードに私は胸が打たれました。陽に焼けて表紙の色も褪せた絵本の中表紙に「〇〇さんへ 父より」と書かれています。お母さんのお父様が、プレゼントした絵本だったのです。お母さんは、この絵本の思い出について次のように書いています。「私と同じ名前の女の子の出る絵本。ずっと母が買ってくれたものと思っていましたが、久しぶりに本を手にして、父から贈られたものだ気づきました。仕事人間だった父の意外な一面を、この年になって知ることができてよかったです。」

きっとお母さんは、ご両親の大きな愛情のもとに成長されたのでしょう。そして今は、お子さんにたっぷりの愛情を注いでいらっしゃると思います。その愛情の下で成長した子どもたちがやがて大人になった時に、次の世代にたくさん愛情を与えていく…。

そう考えると、今、この幼児期の子どもたちを、ご家庭と幼稚

園が歩調を合わせて大切に大切に育むことは、次世代につながる大切な仕事であると感じます。

幼稚園では、クラスの仲間と一緒に毎日絵本を楽しみます。ご家庭でもスマホやテレビではなく、お母さん、お父さんの声で、たくさんたくさん絵本を読んであげてください。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「スマホについて」

牧師の仕事で無くてはならないものがいくつかあります。例えば聖書、祈祷書、そして病床にいる方にご聖体を届けるための入れ物(ピクシス)などです。これらは何百年も前から変わらないツールです。今までは、これだけあれば良かったのです。ところが最近、これにスマホが加わりました。私の同僚もみんな使っています。仕事で使うのはいいのですが、手持ち無沙汰になるとつい、無意識にスマホに手が伸びることがあります。そして気がつくとも目が非常に疲れているのです。これがもし、小さな子どもの時からの習慣になるとどうなるか、色々な悪い影響が出ることは十分想像できます。

以前、釧路の保育園で、幼児期にテレビ画面を長時間見た場合の影響について、医師の講演を聞いたことがあります。詳しい内容は忘れましたが、子どもの心身の発達に大きな影響があるとの報告がなされました。テレビもスマホも、液晶画面から受ける光の問題だけでなく、コンテンツからも影響を受けることは言うまでもありません。何を、どれくらい見せ、そして見せないのか、保護者の方々もご心配のことと思います。

子育てに関して、テレビやスマホの環境を真剣に考えなければならぬ時代になりました。普通は何か問題があれば、過去の経験から学ぶことができるのですが、この問題に関しては、始まったばかりであり、事態が急激に進んでいるために、過去から教訓を得ることができません。私たちの生きる時代そのものが、未来から試されているように思えます。

たかがスマホ、されどスマホ。後悔のないように、注意深く使っていきたいと思えます。

チャプレン 司祭 下澤 昌